

オイルフィニッシュマニュアル



http://www.knockonwood.co.jp

基本作業

- ①表面の汚れを落とす
- ②既存の膜を剥がし仕上げ直しをする
- ③オイルを塗りこんで新しい膜を作り上げる
- ④乾燥させる



海老名本店 神奈川県海老名市今里3-25-41
tel : 046-292-3511 fax : 046-233-7610
自由が丘店 東京都目黒区自由が丘2-2-12
リバティコート橋本1F
tel & fax : 03-5726-3675

用意するもの

- ①オイル・小出しにする容器
- ②紙ヤスリ (240~400番)
- ③中性洗剤 (普通の台所用洗剤でOK!)
- ④ボロ布 (着古しのTシャツや使い古しのタオル等)
- ⑤ペーパー台 (無くてもいいがあればベスト!)

工程①：表面の汚れを取る

①-a. 中性洗剤を水で10倍くらいに薄めたもので湿らせたタオルで、製品全体の汚れを落とすように拭き上げてください。この時、タオルの汚れ加減で拭き具合を調整します



①-b. 水拭きで先ほどの中性洗剤分を取り除くように良く拭きます。

①-c. ①-bが終わったら乾拭きをします。この時表面の荒れている部分を見つけておくと次の作業が良く仕上がります



※ワンポイント※

最初は、端の方で試し拭きをして下さい。汚れがかなりタオルに付くような場合、テーブルなど面積が広い物はムラになってしまうと大変です。ですから部分的にゴシゴシ仕上げるより全体を均一に拭き上げるように心がけてください。

工程②：既存の膜を剥がし仕上げ直しを行う

②-a. サンドペーパーで仕上げていきます。全体的に均一になるようにかけて下さい

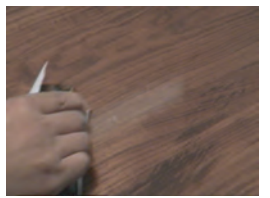
※ワンポイント※

面積の広い部分を仕上げる時にはペーパー台などを使用してペーパー面に均一に力がかかるように仕上げて下さい



※注意1※

目立った傷があっても、その箇所だけを集中してゴシゴシするとオイルを塗った時に、ムラになってしまいます。部分的に集中してこすった場合は周りが均一に仕上がる様に再度まわり全体を掛けてなじませるようにして下さい



②-b. ペーパー掛けをして出た粉を水拭きで取り除いてください。(磨く感じてゴシゴシと・・・)



※注意2※

剥れてきた表面の粉が多く付いたペーパーを使うとヤスリの効く部分と効かない部分の差が出るので仕上がりに筋が入る場合があります。粉の汚れを取るか新しいものに換えましょう。



作業の基本・・・

すべての作業は、木目に沿って行ってください。

作業を行う前に・・・

室温は20℃以上が好ましいです。オイルはあらかじめ湯銭などで温めておくと塗りこむ際に伸びが良く、塗りやすいです。暖めなくても平気ですが、オイルの乾き具合に関係してきます。

※ワンポイント※

オイルは、使う時は別の容器に移します(プリンなどのプラスチック容器で大丈夫です)一度使ったオイルは、戻せないの少しずつ出すのがいいでしょう。

工程③：オイルを塗りこんで新しい膜を作り上げる

③-a. オイルを塗りこんでいきます。オイルを塗りこむ量は表面がしっとりする位がいいでしょう。あまりべちゃべちゃに塗ってしまうと拭き上げるのが大変になってしまいます



ボロ布を小さめに切って、たっぷりと浸した後きゅっと指で軽く絞るといいです。



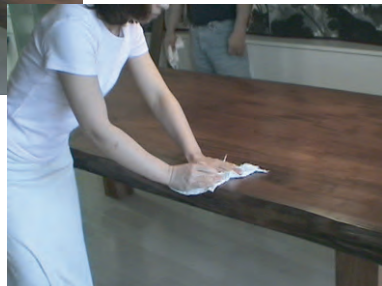
③-b. 少しの間(時期によりますが15~30分位)おいた後、乾いた布で拭き上げます。この時拭き残しがあるとベタツキの原因になりますので良く拭き上げて下さい。特に、(③-a)の作業時に多く塗りすぎた場合中からじわじわ染み出しますので、それがなくなるまで拭き上げなければなりません。

※注意※

拭き上げる時は途中で止めず端から端まで拭き上げるようにして下さい。途中で止めると拭き染みになってしまいます。



途中で止める場合は、接したまま止めずにとっと布を持ち上げて下さい。飛行機が離陸する感じで・・・



※ワンポイント※

拭き上げる際に拭き上げた部分を手で直に触らないで下さい。触っている部分からオイルが染み出しますので、基本的には両手にボロ布を持って拭き上げるようにして下さい。

③-c. 以上で作業終了です。特別難しいところはありませんが、各ポイントをしっかりとやるのが大切です。特に、工程①-②の作業は木目に沿って必ず行われた方が結果はよくなります。

工程④：乾燥させる

④. 全てが終了した後室温20℃以上で12時間~20時間位で乾きますが椅子などは座る前に白い布などでいったん拭いて確認してから座るようにして下さい。※注意※一度でも20℃以上にならないと何日しても低温の中では乾かない場合があります。

※要注意事項※

オイルを塗る際に使ったボロ布は、オイルの酸化重合反応により自然発火する恐れがあるので、使用後は水でびしゃびしゃに濡らしビニール袋などにいれ密閉して燃えるごみに出して処分して下さい。